

第2章

小田原市の食に関わる現状

1 小田原の風土と食

農業は、市の中心部を貫流する酒匂川流域に広がる水田地帯の稲作と西部及び南部の箱根山麓及び東部の曾我丘陵の樹園地のみかんを主体とした果樹に大別されます。

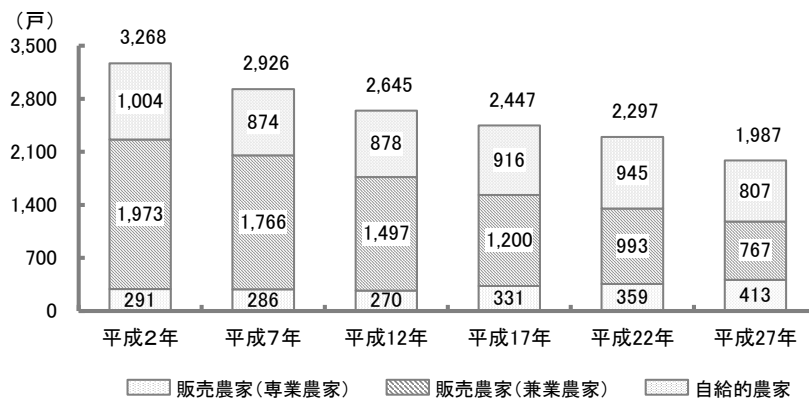
漁業は、昔から相模湾西部の漁業の中心地として栄え、海の幸に恵まれてきました。中でも全国的に有名なものが定置網漁業です。海域は急深な地形であり、岸から沖へ1,500メートルも離れば水深が200メートルに達するほどです。このため、この深い海底地形に適した定置網が発達してきました。

また、古くから、多くの人々が往来し、さまざまな文化の交流が行われてきた地域でもあり、自然と歴史の中で育まれた「かまぼこ」や「梅干し」「ひもの」など、小田原の伝統食品は全国的にも有名です。

(1) 農家

農家戸数の推移をみると、平成2年から減少しており、平成27年には1,987戸となっており、平成2年に比べ6割ほどとなっています。特に、販売農家（兼業農家）が減少しています。

図 農家戸数の推移



出典：農林業センサス

(2) 農産物収穫量

農産物の収穫量をみると、みかんが 11,400 t で最も多く、次いで、水稻 2,140 t、たまねぎ 1,370 t となっています。

また、みかん、たまねぎ、梅については、神奈川県内で 1 位となっています。

図 小田原農産物 収穫量

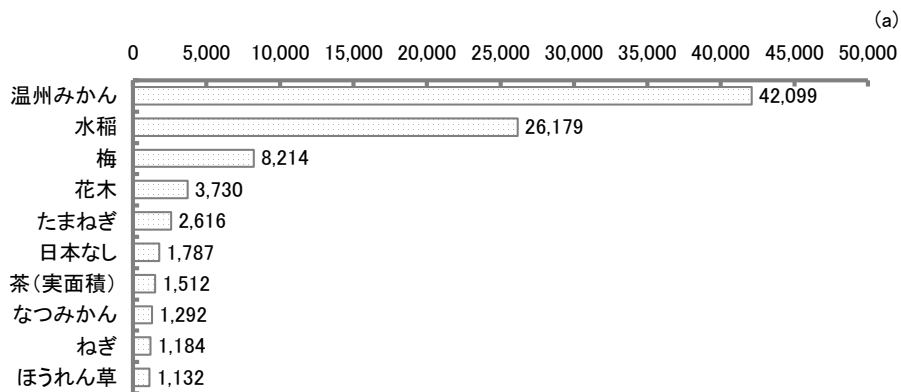
項目	収穫量	神奈川県内順位
みかん	11,400 t	1 位
水稻	2,140 t	2 位
たまねぎ	1,370 t	1 位
梅	903 t	1 位
茶	125 t	4 位

出典：平成 18～19 年神奈川県農林水産統計年報

(3) 作物別作付（栽培）面積

生産高の第 1 位は栽培面積が約 482ha に及ぶみかん（その他柑橘も含む）で、他に米・梅・花木類などがあります。

図 小田原市作物別作付（栽培）面積上位 10 品目

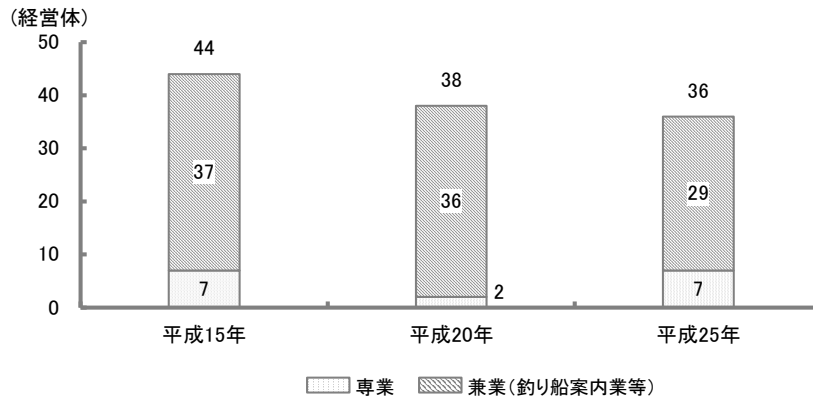


出典：2005 年農林業センサス

(4) 漁業

自営漁業（個人）の専業・兼業経営体数の推移をみると、平成 15 年から減少しており平成 25 年には 36 経営体となっています。しかし、専業経営体数は平成 20 年以降増加しており、平成 25 年には平成 15 年と同じ 7 経営体となっています。

図 自営漁業（個人）の専業・兼業経営体数の推移

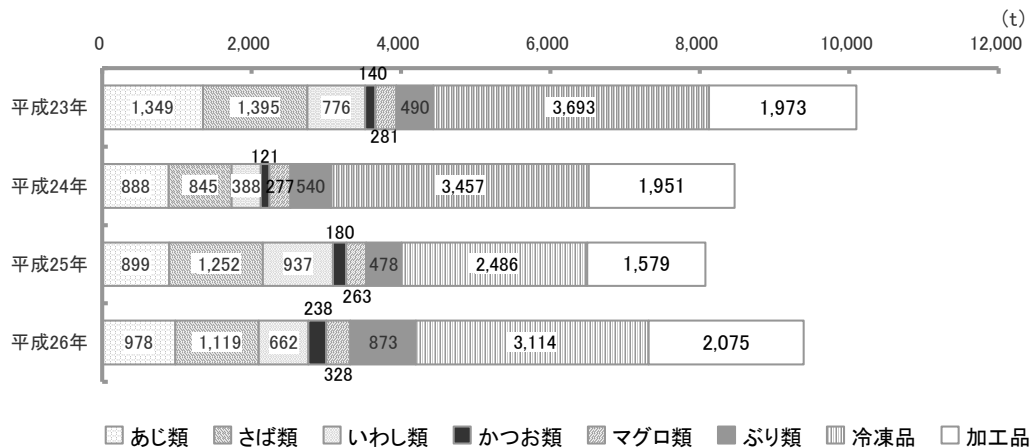


出典：漁業センサス

(5) 公設水産地方卸売市場での主な取扱数量

小田原市公設水産地方卸売市場での主な取扱数量をみると、全数量は平成 25 年までは減少し、平成 26 年で増加しています。平成 26 年では冷凍品、加工品を除き、さば類が最も多く 1,119 t、次いで、あじ類が 978 t、ぶり類が 873 t となっています。

図 小田原市公設水産地方卸売市場での主な取扱数量



出典：水産海浜課

(6) 平成26年度水揚量と水揚金額ベスト5

平成26年度の水揚量の1位はサバ類で712t、水揚金額の1位は活魚類で223,901千円となっています。

表 平成26年度水揚量と水揚金額ベスト5

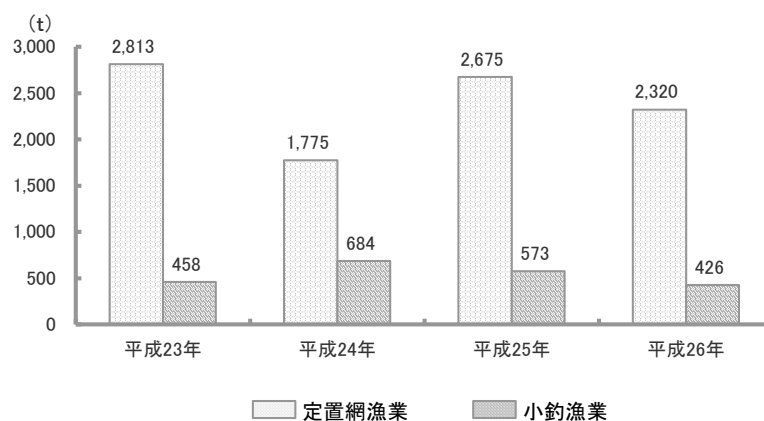
順位	魚の名前	水揚量	順位	魚の名前	水揚金額
1位	サバ類	712 t	1位	活魚類	223,901 千円
2位	イワシ類	464 t	2位	アジ類	202,572 千円
3位	アジ類	311 t	3位	サバ類	76,025 千円
4位	ソウダガツオ	259 t	4位	その他	70,064 千円
5位	カマス	227 t	5位	貝類	45,830 千円

出典：水産海浜課

(7) 地元漁業種別水揚状況（数量）

地元漁業種別水揚量を見ると、定置網漁業、小釣漁業ともに増減を繰り返しており、平成26年で定置網漁業は2,320t、小釣漁業は426tとなっています。

表 地元漁業種別水揚量

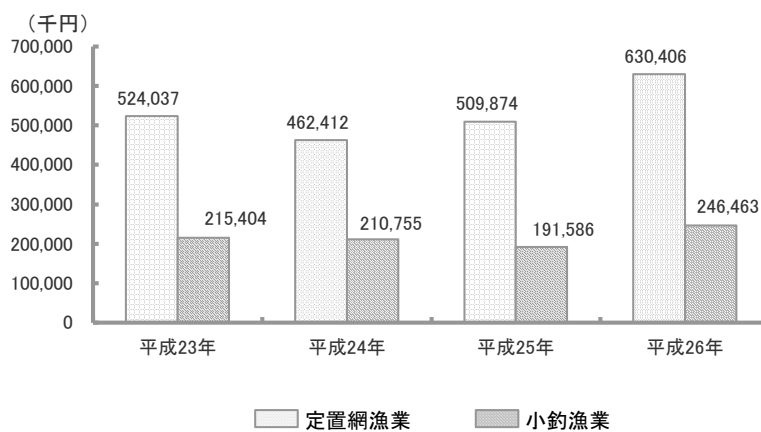


出典：水産海浜課

(8) 地元漁業種別水揚状況 (金額)

地元漁業種別水揚金額をみると、定置網漁業は増減を繰り返しています。平成 26 年で定置網漁業は 630,406 千円、小釣漁業は 246,463 千円となっています。

図 地元漁業種別水揚金額



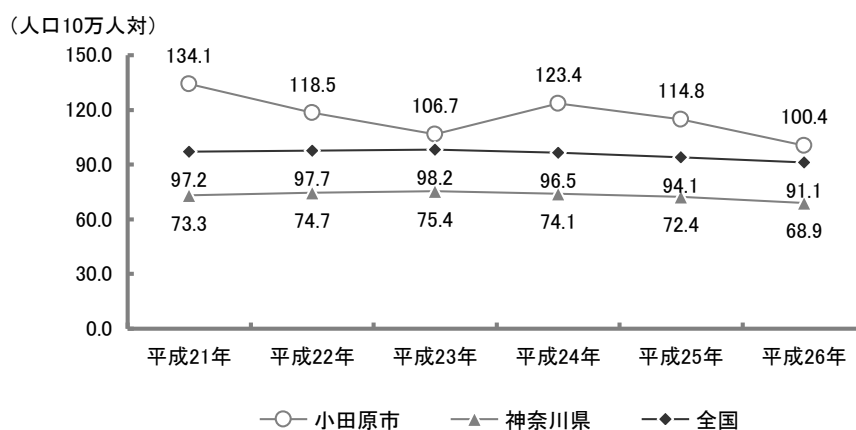
出典：水産海浜課

2 小田原の食をめぐる現状

(1) 脳血管疾患死亡率

脳血管疾患死亡率の推移をみると、平成 24 年に増加しますが、平成 21 年から減少傾向にあり、平成 26 年には 100.4 となっています。しかし、神奈川県や全国に比べ高い値で推移しています。

図 脳血管疾患死亡率の推移

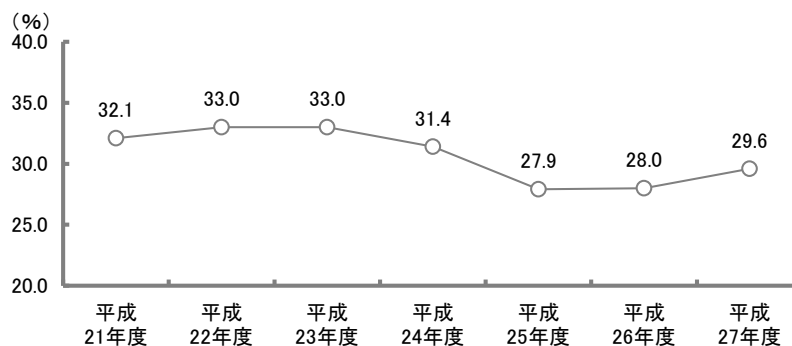


出典：小田原市、神奈川県は神奈川県衛生年報
全国は人口動態統計

(2) 学校給食

学校給食における県内地場産品（生鮮食料品）使用率の推移をみると、平成 23 年度から減少傾向にあり、平成 25 年度には 27.9% となりましたが、その後は増加し、平成 27 年度には 29.6% となっています。

図 学校給食における県内地場産品（生鮮食料品）使用率の推移



出典：保健給食課

3 第1期計画の評価

前計画において、5つの基本目標に7項目の数値目標を設定しました。

7項目中1項目（食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合）でA評価、4項目でB評価、2項目（栄養のバランスを考えて食事をとる市民の割合、食育に関心をもっている市民の割合）でC評価となっています。

〔目標1 健康に配慮した食習慣を身につける〕

指標		当初値 (H22)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
毎日朝食をとる 市民の割合	小学生	86.1%	95%以上	94.4%	B
	中学生	79.0%		91.8%	B
	20歳以上の男女	80.6%	85.0%	80.7%	B

〔目標2 バランスよく食べる〕

指標	当初値 (H22)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
栄養のバランスを考えて食事をとる 市民の割合	40.3%	75.0%以上	34.1%	C

〔目標3 食の安全・安心について理解を深める〕

指標	当初値 (H22)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
食品の安全性に関する基礎的な知識を 持っている市民の割合	63.4%	75.0%以上	87.6%	A

〔目標4 食べ物を大切にすることを育む〕

指標	当初値 (H22)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
日ごろから「もったいない」と感じる 市民の割合	58.3%	90.0%以上	58.8%	B

〔目標5 市民・団体・行政が一体となって食育を推進する〕

指標	当初値 (H22)	目標値 (H28)	現状値 (H28)	評価
食育に関心をもっている市民の割合	77.6%	90.0%以上	65.7%	C

- ※1 当初値は、平成21年度「小田原市健康と食に関する意識調査」の結果
- ※2 目標値は、前計画策定時に設定した数値目標（目標1と目標2の数値は、小田原市健康増進計画に準ずる。）
- ※3 現状値のうち、毎日朝食をとる市民の割合の小・中学生の数値は、平成28年度全国学力・学習状況調査の結果、その他の数値は、平成28年度「食と健康」に関するアンケート調査の結果
- ※4 評価

A	目標達成	目標値に達した
B	改善	目標値には達していないが、当初値は上回った
C	未達成	目標値・当初値ともに達していない